

鉄道事業の概況

当社の鉄道事業は、新宿を起点とする京王線と渋谷を起点とする井の頭線からなり、東京都西部を中心に神奈川県北部にもまたがる84.7kmの路線において、1日約175万人を輸送しています。多摩ニュータウンを抱える当社線は通勤通学路線という性格が強い一方、明治の森高尾国立公園の中心である高尾山への行楽地輸送にも重要な役割を果たすなど、首都圏交通の大動脈の一翼を担っています。

当社は、沿線地域の発展にあわせて、輸送力の増強を図ってきました。1978(昭53)年には新宿駅～笹塚駅間の複々線化が完成し、1980(昭55)年に都営地下鉄新宿線と相互直通運転を開始しました。1990(平2)年には多摩ニュータウンの開発にあわせて建設を進めてきた相模原線が橋本まで延伸し、全線開通しました。

また、さらなる輸送力の増強を図るため、「特定都市鉄道整備積立金制度」を活用して、「京王線長編成化工事」、「井の頭線車両大型化工事」を実施しました。京王線では1996(平8)年から朝間ラッシュ1時間帯に運転する上り列車30本すべてを10両編成で運転しているほか、井の頭線では1996(平8)年に大型車両1000系の運行を開始し、1997(平9)年には朝間ラッシュ1時間帯に運転する上り列車を28本から30本に増発しています。

これらの工事完了に伴い、1997(平9)年に、平均9.1%引き下げる運賃改定を実施しました。これは、工事費の一部に充てるため運賃へ上乗せしてきた分6.0%に

これまでの積み立てを取崩し還元する分3.1%を加えたものです。

当社では、『安全』は最大の使命であるという信念のもと、安全の確保に向けた取り組みを積極的に行ってきましたが、2006(平18)年に、さらなる輸送の安全性を確保するため「安全管理規程」を制定するとともに、「運輸安全マネジメント」の運用を開始しました。また、道路と鉄道の立体交差化として、1964(昭39)年に京王線の新宿駅～初台駅間を地下化したのをはじめ、長沼・北野駅付近、府中駅付近などで高架化による連続立体交差事業を完成しています。現在、東京都、調布市と協力しながら調布駅付近連続立体交差事業を進めています。このほか、京王線笹塚以西の鉄道立体化について、事業主体である東京都とともに事業化に向け、都市計画手続きや環境影響評価などを進めています。

一方、利便性の向上の取り組みとして、2007(平19)年にICカード乗車券「PASMO」を導入したほか、適宜、ダイヤ改定を実施し、速達性・利便性の向上や混雑の緩和を図っています。また、駅や車両のバリアフリー化を推進しているほか、企業としての社会的責任を果たすため、省エネルギー化をはじめとした地球温暖化防止のための諸施策を推進しています。

当社は今後も「信頼」の根幹をなす安全性をさらに高めるための施策、バリアフリー化を含むサービス向上策、省エネルギー化などの環境対策を積極的に実施し、「信頼のトップブランド」を目指します。